

社会保険労務士からの三方一両得だより

令和元年11月20日 第122号

「地図と測量の科学館」に行ってきました

筑波学園都市にある地図と測量の科学館に行ってきました。国土地理院本部の敷地内にあります。個人的に、「国土地理院」という言葉の響きがかっこ良くて大好きです。以前は「地理調査所」という名前だったそうで、改名して正解だったと思います。

さて私、社労士であると共に測量士でもあります。未だかつてこのような社労士には会ったことがありません。かなりのレアパターンだと思います。そんな私にぴったりの科学館でした。



筑波山に掛かる雲が噴煙に見えました。

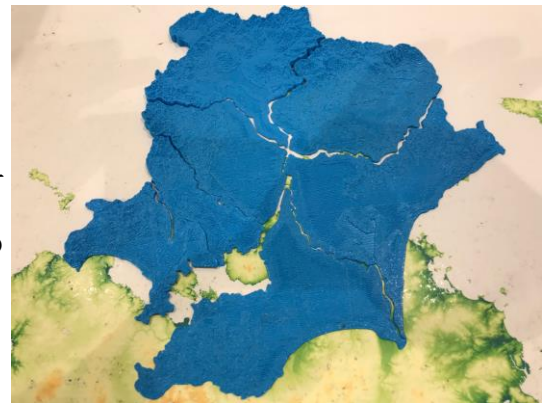
できます。ずっと見ていると酔ってきますが、とても面白かったです。

こんなコアな科学館はどうせガラガラだろうと思っていたら、小さな子供連れのファミリーからおじさんのグループまで、幅広い来館者がいて驚きました。

売店には地図にまつわるレアグッズがたくさんあり、見てだけでも楽しめます。ここ、お勧めです。

館内には伊能忠敬が使用した測量器具のレプリカや、空中写真から地図を作成する機械などが展示され、測量の仕組みを分かりやすく学ぶことができます。また、古地図も多数展示されていて、その緻密さには感心させられます。

エントランスには昔懐かしの赤青のフィルムを貼った眼鏡で見る、全長 10mを超える日本地図の立体図があり、その上を歩き回りながら海溝の深さや山がちな地形を実感することが



都道府県パズルは関東ですら一人ではできませんでした。

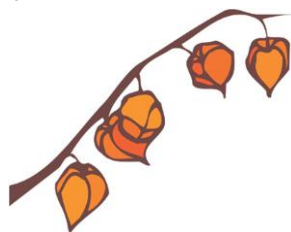


7株育ててこれだけしか採れませんでした。

我が家の畑
お陰様で、今年もサツマイモは豊作でした。さすが江戸の飢饉を救った作物です。超絶優秀です。苗を植えて時々引っこ繰り返すだけで大量の芋が収穫できます。ありがたい。
半面、落花生が大不作でした。7株ほど育てていて、採れた落花生はせいぜい30鞘ほどです。葉っぱは結構茂っていいのですが、一つも鞘が付いていない株もありました。昨年採れた落花生を種にしたのがいけないのでしようか。

若手が求めるやりがいとは

経営者の共通の悩みとして、若手社員がなかなか自主的に仕事に取り組んでくれないというものがあります。いつも私は、「頼んだことだけでもしっかりやってくれるなら大したものですよ」とお答えしますが、当然、自発的に新しい仕事に取り組んでくれればこんなにありがたいことはないわけです。それにはやりがいを感じることによる動機づけが必要となります。では、どんな時に若手社員はやりがいを感じるのでしょうか。



入社2年目までの若手正社員(22~27歳)を対象とした調査によると、仕事に「やりがいを感じている」割合は約70%だということです。やりがいの中身(複数回答可)では、上位から順に「仕事の成果を認められる」が37.6%、「仕事をやり遂げる」が34.7%、「自分の成長を感じる」が34.7%、「新しい仕事にチャレンジする」が33.2%、「お礼や感謝の言葉をもらう」が31.4%となっています。

残念ながら若手の約30%は、そもそも仕事にやりがいを求めていないという現実が見えてきました。

男性国家公務員の育児休業取得期間 原則「1か月以上」へ

政府は、男性国家公務員の育児休業を原則1か月以上取得するよう促す方針で検討していることを明らかにしました。

このニュースを目にした時は、実現は無理だろうと思っていましたが、昨年度の男性の育休取得率は21.6%だそうです。ちなみに民間の取得率は6.16%です。もともと取得率が高かったのですね。知りませんでした。嫌味を言いたくなるような開きがありますが、率先垂範ということで強く育休取得を勧奨されているのだと思います。

育休の期間は、男性国家公務員の72.1%、民間は82.9%が1ヶ月以内でした。ちなみに民間の56.9%は5日未満でした。こちらは形だけの育休に近いですね。

一昔前は、女性社員は結婚したら退職、妊娠したら退職が当たり前でした。でも今は、子供が1歳になるまで育休を取得するのが当たり前になっています。もしかすると男性も数ヶ月の育児休業を取得するのが当たり前になるかもしれません。

5日間の育休を取得させるだけで60万円もの助成金がもらえる機会も、そう長くはないでしょう。ご興味がある方はご連絡ください。